

栗原議員（公明党）

平成 27 年 2 月 17 日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）がん教育の推進について

旭川医科大学病院の専門医師が中心になって、北海道のある高校で実施したアンケートでは、「がんに関わるイメージ」として、「がんは治らない」と答えた生徒が男子は 54%、女子は 57% に達しており、「がんはやがて死を迎える」と答えた男子 88%、女子 81% という数値と重ねると「がんイコール死」と考える生徒が圧倒的であった。

今や、がんは全体で約 6 割が治る病気で、早期発見なら約 9 割が治ることが、高校生に正しく理解されていないことを重く受け止めなければならない。

がん教育は、学校現場だけの取組では限界があり、医師や看護師、保健師、がん経験者らを外部講師として招き、協力を得るなど、指導方法に工夫が必要である。

そこで、教育委員会と健康福祉局が連携し、学校現場での質の高い授業を実現してもらいたいと思うが、今後のがん教育をどのように充実させていくのか伺う。

（答）

がんに対する正しい理解と行動のためには、児童生徒に早い段階から、がんについての正確な知識を教えるとともに、予防のため自ら実践する態度を育成する必要があると考えております。

取組を進めるに当たりまして、まずは、がんに関して、教職員自身が理解を深める必要があることから、今年度、各学校の保健主事を対象とした研修において、がん教育の講座を実施したところであり、来年度は、教職員向けの指導資料を作成し、研修を実施することとしているところでございます。

また、授業の実施に当たりましては、健康福祉局と密接に連携し、医師やがん経験者などを外部講師として招き、がんに関する正確な知識や健康の大切さなどについて学ぶことにより、児童生徒の正しい理解が進むよう、がん教育の推進に取り組んでまいります。